

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概要	編者・著者名（共著 の場合のみ記入）	該当頁数
(著書) 1. 『三昧耶戒序／秘密三昧耶仏戒儀 ／平城天皇灌頂文／(弘仁) 遺 誠』	共著	2003. 12	四季社	『秘密三昧耶仏戒儀』の現代語訳ならびに語注 を担当。	宮坂宥勝・大沢聖 寛・佐藤正伸・北川 真寛・佐々木大樹	
(学術論文) 1. 秘密莊嚴住心の存在論的構造につ いて	単著	1997. 3	密教文化 (198)	空海の十住心思想における秘密莊嚴住心にお ける身心の定義について、M・ハイデッガーの実 存論との対比を行い、その相違点を論じた。		49-63
2. 『般若心経秘鍵』の撰述年代につ いて—諸問題に見られる経題解釈 法からの考察—	単著	2001. 2	高野山大学大学院 紀要 (5)	近来、空海最晩年の撰述と言われてきた『般若 心経秘鍵』の撰述年代について、その経題解釈 方法が、天長前半期で否定される方法であるこ とから、天長年間中頃までの撰述である可能性 を指摘した。(査読有り)		1-16
3. 平安時代初期における法身説法説 の受容	単著	2003. 3	日本印度學仏教学 研究 (51-2)	天長六本宗書に教えられる玄叡の『大乘三論大 義鈔』における法身説法批判を取り上げ、空海 当時の顕密対弁に対する反応を検証した。(査 読有り)		652-654
4. 『弁頭密二教論』巻上における 「或者」について	単著	2004. 12	高野山大学大学院 紀要 (8)	『弁頭密二教論』巻上で空海が批判した、『法 華経』教主を法身と解釈する「或者」につい て、それが伝教大師最澄を意識したものと考え られることを指摘した。(査読有り)		1-16
5. 『華嚴宗一乘開心論』における 「円円海」解釈—『弁頭密二教 論』との関連を通して—	単著	2004. 12	日本印度學仏教学 研究 (53-1)	天長六本宗書に教えられる普機の『華嚴宗一乘 開心論』における『釈摩訶衍論』解釈を、空海 の『弁頭密二教論』における解釈と比較し、空 海の顕密対弁に対する空海当時の反応を検討し た。		46-49
6. 『二教論』における『大智度論』 法性身説法について	単著	2005. 3	密教学研究 (37)	『二教論』で空海が用いた『大智度論』所説の 法性身説法について、空海当時の理解ならびに それに基づく批判を踏まえつつ、空海が『大乘 起信論』および『釈摩訶衍論』の始覚門から、 この法性身説法を解釈している可能性を指摘し た。		59-73
7. 『弁頭密二教論』における『楞伽 経』法仏説法の解釈について—特 に法相教学との対比を通じて—	単著	2005. 12	密教文化 (215)	空海が独自の解釈を行ったとされる『楞伽経』 所説の法仏説法について、それが空海当時の法 相教学では常識的に論じられている点、および その上で空海がその内容を大きく変容させてい る点を指摘した。(査読有り)		1-28
8. 「一乘経劫」について—即身成仏 思想に関する問題—	共著	2006. 2	高野山大学密教文化 研究所紀要 (19)	空海の提唱した即身成仏思想について、華嚴・ 天台の成仏論との関連を問題とした『宗義決撰 集』所収の論義である「一乘経劫」について、 天台宗における議論と共に検討を加えた。(査 読有り)	北川真寛	43-70
9. 『大日経開題』における「神変」 と「加持」について	単著	2010. 3	密教学研究 (42)	『大日経開題』における「神変」と「加持」に ついて、伝統教学における註釈を中心に検討し た。(査読無し)		135-150
10. 『御遺告』における順暁について	単著	2014. 3	空海研究 (1)	『御遺告』において恵果和尚の兄弟弟子と位置 付けられる順暁について、それが東密への蘇悉 地流入の影響によるものと推論し、検討を加え た。(査読有り)		59-85
11. 凡聖六大について	単著	2015. 2	高野山大学大学院 紀要 (14)	『宗義決撰集』所収の「凡聖六大」の論義を、 その他の論義書の論義とともに検討し、この論 義が「秘密灌頂」の口決と密接な関係を有し、 その文脈で論じられていることを指摘した。 (査読有り)		1-15
12. 空海の『大智度論』解釈について	単著	2015. 3	空海研究 (2)	『弁頭密二教論』で展開される『大智度論』を 用いた「二重二諦」説が、『金剛頂経』と『大 日経』における修道論的観点から導き出された 空海独自の解釈であることを指摘した。(査読 有り)		15-35
13. 覚海が飛んだ日	単著	2015. 3	密教学会報 (53)	高野山教学の祖ともされる覚海大徳が天狗と なったという伝説について、覚海の伝記資料や 未翻刻資料の教相史の資料を検討し、この伝説 が江戸時代の初期まで確認できないことを指摘 した。		297-319
14. 『弁頭密二教論』における「宗 極」について		2016. 3	空海研究 (3)	『弁頭密二教論』巻上で「宗極」とされる概念 について、それが空海当時どのような意味で理 解されていたのかについて検討し、それが『涅槃 經』の「一切衆生悉有仏性」との関連で理解 される概念であったことを指摘した。(査読有 り)		77-96

15.	「六大四曼互為能生」について		2016. 3	密教学研究 (48)	『宗義決撰集』所収の「六大四曼互為能生」をとりあげ、その内容が「灌頂の極位」の口決にかかわることを指摘した。(査読無し)		51-65	
16.	「理法身説法」について		2017. 2	高野山大学大学院紀要 (16)	『宗義決撰集』所収の「理法身説法(有快)」をとりあげ、その内容が単なる教学上の議論ではなく、宝門相伝の「灌頂の極位」の口決との関係で発生した議論である可能性を指摘した。(査読有り)		1-14	
17.	「等覺十地不能入室」考		2017. 3	空海研究 (4)	『弁頭密二教論』巻上で述べられる「等覺十地不能入室」について、それが『不空表制集』を典拠とし、「灌頂」儀礼を表現したものであることを論じた。(査読有り)		86-110	
18.	『宗義決撰集』における「遍計所執捨不捨」について		2018. 2	高野山大学論叢 (53)	明和版『宗義決撰集』に追加された「遍計所執捨不捨(有快)」の論義を取りあげ、明和版『宗義決撰集』の編者である快弁が、先行する慶安版『宗義決撰集』所収の「遍計所執捨不捨(快実)」が宝門相伝の内容と異なることから、有快のものを追加した可能性があることを指摘した。		1-14	
19.	「六大仏形」について		2019. 3	密教学研究 (51)	『宗義決撰集』所収の「六大仏形(有快)」をとりあげ、その内容が単なる教学上の議論ではなく、種三尊や灌頂の大事といった事相と関連することを指摘した。(査読有り)		67-82	
20.	三種即身成仏について		2020. 3	智山学報 (69)	『異本即身成仏義』に説かれる三種即身成仏のいずれが正意であるのか、という真言宗内の論義について、それが14世紀ころまでは見られないことを指摘した。またかかる議論の萌芽が、頼諭の著作に見られることを指摘した。(査読無し)		239-255	
21.	〈真如〉と〈真言〉—『十住心論』巻第九・深秘釈段を中心に—		2020. 3	高野山大学論叢 (55)	『異本即身成仏義』に説かれる三種即身成仏のいずれが正意であるのか、という真言宗内の論義について、それが14世紀ころまでは見られないことを指摘した。またかかる議論の萌芽が、頼諭の著作に見られることを指摘した。(査読有り)		239-255	
(その他)								
1.	1. 真言密教における「神変」—衆生救済と即身成仏—	単著	2016. 2	京都・宗教論叢 (10)	チェーンレクチャーテーマ「人間にとって救済とは何か」に基づく講義の概要。大乘仏教の「神変」思想が、救済論と密接な関わりを有することを確認し、その思想が空海の即身成仏思想にまで継続することを示した。		43-45	
2.	金剛三昧院本『御手印縁起略解』について	共著	2016. 3	高野山大学密教文化研究所紀要 (29)	高野山大学図書館蔵・金剛三昧院寄託の快弁撰『御手印縁起略解』は、その存在が指摘されていたものの、翻刻されておらず未見の資料であった。今回その翻刻調査を通して、金剛三昧院本の『略解』が快弁自身の原本である可能性を指摘した。解題部分を担当。(査読有り)	森本一彦 川染龍哉 木下智雄 榊原啓優	1-49	
3.	『天正高野治乱記』六本対観表	共著	2017. 2	高野山大学論叢 (52)	織田信長による高野山攻めを、高野山側の視点から描いた軍記物語である『天正高野治乱記』を通して、近世高野山における宗教意識・歴史認識を知るための基礎作業として、写本六本を対観した。	榊原啓優 木下智雄 高柳健太郎 浜畑圭吾	31-59	
4.	『秘蔵宝鑰』の研究—第九住心—	単著	2018. 3	高野山大学密教文化研究所紀要 別冊	弘法大師著作研究会で開催した『秘蔵宝鑰』訳注研究の内、第九極無自性心部分を担当した。		41-89	
5.	『声字実相義』の研究	共著	2020. 3	高野山大学密教文化研究所紀要 別冊	弘法大師著作研究会で開催した『声字実相義』訳注研究の内、「内外依正具」以下の箇所を担当した。	松長潤慶 米田弘仁	124-164	